

## ■外務大臣からの感謝状の授与について 【企画部 企画課】

洪水被害を受けたタイへの排水支援の一環として四国地方整備局から国際緊急援助隊に派遣された以下の2名に対し、5月18日（金）に外務大臣から感謝状が授与されました。また、併せてレセプションも開催されました。

### ○対象者

・藤山 究

四国地方整備局 企画部 技術開発調整官

（現 企画部 技術調整管理官）

派遣期間：平成23年11月15日～12月8日

・鎌田 卓

四国地方整備局 河川部 河川計画課 計画第二係長

（現 環境省 水・大気環境局 水環境課 下水道係長）

派遣期間：平成23年12月6日～12月25日

### ○タイでの活動内容

国際緊急援助隊専門家チーム（排水ポンプ車チーム）として、国土交通省から現地に派遣された排水ポンプ車を使った氾濫水の排水対策に関する指導・助言を行いました。

## ■土器川水防演習の開催 【香川河川国道事務所】

5月20日（日）香川県丸亀市垂水町地先の土器川左岸（土器川生物公園前）河川敷において、一般の方々も含め1,200人以上の参加のもと平成24年度土器川水防演習を開催いたしました。

演習は、大規模洪水が発生することを想定し、国土交通省、香川県、土器川流域の関係市町と各水防（消防）団、警察、陸上自衛隊、日本赤十字社、四国電力、NTTなど関係機関が、土器川の洪水被害の防止・軽減、早期復旧のための「水防工法の習得、情報伝達、人命救助、ライフライン復旧等」を中心に演習を行いました。

また、地域住民にも水防活動などを体験していただくため、自主防災会や香川大学工学部の学生にも水防工法訓練に参加していただきました。

演習会場では、一般参加者に水防工法を身近に感じてもらうため、家庭で出来る水防工法体験やロープワーク体験、降雨体験など多くの方々に実際に触って体感してもらいました。

四国地方は6月8日に梅雨入りし、先日は6月としては8年振りとなる日本列島への台風上陸がありました。これから本格的な出水期を迎えるにあたり、今後とも関係

機関と連携し、防災に万全の備えを行っていきたいと考えています。

#### ■「波介川河口導流事業通水式」の開催 【高知河川国道事務所】

高知県土佐市の市街地周辺の浸水対策として整備を進めてきた波介川河口導流路の完成を控え、5月19日（土）土佐市新居緑地公園において、約200人の出席のもと通水式を開催しました。

式典では、川崎四国地方整備局長の式辞から始まり、佐藤国土交通省技監の挨拶、その後、尾崎高知県知事や地元選出の国会議員4名による祝辞を賜りました。さらに、野仲高知河川国道事務所長の工事経過報告の後、波介川潮止堰の通水ボタン操作や地元小学生の皆さんにも参加頂いたくす玉開披を行い、最後に地元代表の板原土佐市長から謝辞の言葉を頂きました。

式典後は、同会場で土佐市主催のセレモニーが行われ、土佐市光の村の皆さんによる太鼓演奏や記念碑除幕、もち投げが開催され、地元の方々など多くの方々に参加を頂きました。

この波介川河口導流路の完成により、災害に強い街づくりが進められ、地域の生活基盤の安定と、良好な生活環境の確保に大いに貢献するものと確信しております。

#### ■波介川河口導流路の初運用 【高知河川国道事務所】

平成24年6月1日より本格運用を開始した波介川導流路において、6月19日台風4号による出水により、6月19日13:30から初めての洪水対応操作を行いました。

#### ■第1回 香川地域継続検討協議会の開催 【企画部 広域計画課 防災課】

平成24年5月8日に開催した香川地域継続検討協議会（仮称）設立シンポジウムを踏まえ、南海トラフによる巨大地震に備えて、香川大学危機管理研究センターが中心となり、香川地域の重要機能を担う機関の参加の下、地域全体の防災力向上を目指した地域継続計画（DCP）の検討、普及を図るため、「香川地域継続検討協議会」を設置し、第1回協議会を開催しました。

開催日：平成24年5月31日（木）

開催場所：高松サンポート合同庁舎 低層棟2階 アイホール  
プログラム

- ・ 協議会設立趣旨説明
- ・ 協議会規約、構成員の確認
- ・ 議事（協議会の運営方法、年度計画）

なお、本取組は、国の機関や地方公共団体のみならず、学識経験者や地元経済界など47機関が認識を共有し、四国が一体となって取り組むべき事項を示した「四国地震防災基本戦略」に位置づけられています。

四国地震防災基本戦略はこちら

<http://www.skr.mlit.go.jp/kikaku/senryaku/index.html>

#### ■ 「高松港朝日地区耐震強化岸壁」の供用式典開催 【高松港湾・空港整備事務所】

5月26日（土）、「高松港朝日地区耐震強化岸壁」の供用式典を開催しました。当式典は、室井国土交通大臣政務官をはじめ、地元国会議員、県内沿岸自治体の首長ら約80名の出席のもと、来場者を対象とした自衛隊による掃海艇の内部公開、緊急物資輸送訓練も同時開催され、会場は熱気に満ちあふれていました。

本耐震強化岸壁は、平常時は船舶の大型化に対応した水深-12mを有する施設として利用され、また、大規模災害発生時には、海上から運搬される緊急物資の輸送拠点として活用されます。

また、当岸壁の完成にともない、バルク貨物を当岸壁にシフトし、コンテナターミナルを2バーズ化する港湾機能の再配置により、さらなる物流の効率化が見込まれます。